

子育て世帯向け市営住宅 入居者募集



若者の定住促進と、居住の安定に特に配慮が必要な子育て世帯に居住環境が良好な賃貸住宅を提供するため、国の社会資本整備総合交付金を活用して、高倉町大瀬八長に市営住宅3戸を建設しました。住宅の構造は、木造2階3LDKの1戸建てで、延床面積は87.9㎡。間取りは、1階にリビング・ダイニング・キッチン、和室6畳1間、洗面脱衣室、浴室、トイレを完備。2階には洋室6畳2間があります。屋内はバリアフリーとなっていて、オール電化システム、駐車場2区画、屋外倉庫を備えています。

●募集住宅

住宅名	戸数	間取り	月額家賃
八長住宅(高倉町大瀬八長)	3戸	3LDK	57,000円

●入居者資格

- ①子育て世帯(18歳未満の同居の親族があること)であること
- ②月額所得(*)が158,000円以上487,000円以下であること(40歳未満の人は123,000円以上487,000円以下)
- ③自ら居住するための住宅を必要とすること
- ④暴力団員でないこと
- ⑤市営住宅の家賃と割増賃料を滞納していないこと
- ⑥市町村税を滞納していないこと

*月額所得…世帯全員の年間総収入から給与所得控除、配偶者控除、扶養親族控除等を行い12で除した額

●連帯保証人…独立の生計を営み、確実な保証能力を有する連帯保証人2人があること

●申込受付期間…5月1日(火)～5月15日(火)

●現地見学会…5月6日(日) 午前10時～午後4時(スリッパを持参ください)

●入居者抽選会

5月26日(土) 午後7時から市役所第2庁舎会議室(落合町近所)にて

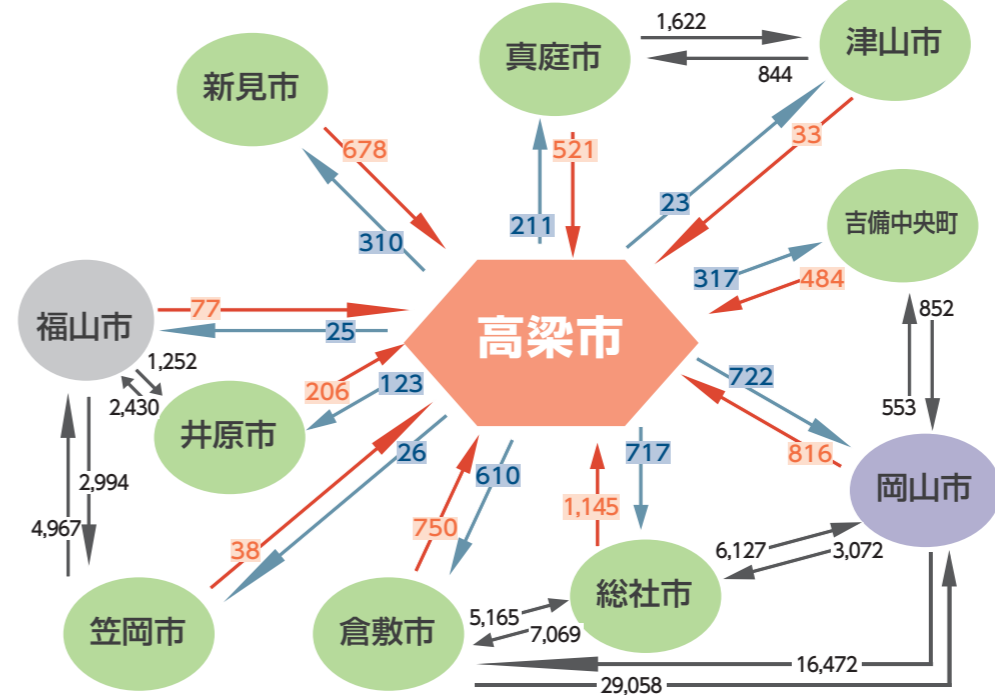


■問い合わせ 都市整備課住宅係 ☎0237

若者世代が愛着を感じるまちに 地域づくり健康診断

市は日本政策投資銀行と協力して、高梁市の課題や可能性を評価・診断し、その結果を地域の共通認識として、今後のまちづくりを生かすため、昨年11月から現地取材や関係団体との意見交換、各種データを使い、現状を分析しました。

周辺自治体との通勤・通学関係
資料：2005年 国勢調査(単位 人)



人口

ピークから半減
昼間人口が多い

・通勤通学で人の出入りを見ると、全ての周辺自治体からの流入が流出を上回っている(上図参照)。大都市での昼間人口が常住人口を超えることはありますが、本市のような地方都市ではまれな現象。
・昭和25年(1950年)の7万5,824人をピークに、平成22年で3万4,963人に減少。人口の減少には社会増減人の出入りと自然増減(死亡と出生の差)の2つの要因がありますが、いずれも減少しています。
・年齢別人口構成を見ると、生産年齢人口の25歳から49歳の割合が全国に比べて低く、70歳から85歳以上の高齢者の割合が高い。しかし、市内に高校や大学があるため、15歳

から24歳の割合は全国と比較して多い。
・今後の人口推計を見ると、25年後には、総人口が2万5,054人になり、70歳以上の人口割合も34%(現在28.9%)に達し超高齢化時代を迎えます。

雇用

商業は横ばい
サービス業は微増

・農林漁業の就業者数は、20年間(1985～2005年)で半減。製造業は30代の就業者が少ない傾向です。

農業

担い手層が変化

・就業者数は、70歳以上の高齢者が退き、50代から60代を中心に増加しています。

工業

従業員は1割減
出荷額は1割の増

・全体の産出額は減少傾向にありますが、「畜産」と「果実」は増加しています。
・製造品出荷額は、80年代後半のピーク時水準まで回復傾向にありますが、従業員数は92年をピークに減少。

高梁のキーワード検索での上位ワード

- 地場産品
①川ガニ ②高梁紅茶 ③ドジョウ
- 観光スポット
①雲海 ②広兼邸 ③西江邸
- (検索エンジン Google にて抽出、日本政策投資銀行地域診断の結果から)

商業

06年度を100として
90年度の売上は77

・大型店から中小零細までの小売店の全売上合計は、減少が続いていますが、同時に売場面積も減少しているため、個人所得の大幅な減少はありません。

観光

旅行計画の参考手段
インターネットが1位

・備中松山城の入り込み客が最も多く、吹屋地区も安定した集客があります。
・インターネット大手検索システムで、本市の観光に関するキーワード検索をした結果(右図参照)、本市が主にPRしている観光地や特産品とは異なったものの方が、より

多くのページが検索される場合があります。本市のPRしたいものが世の中の関心事項とずれている可能性があります。その見極めが必要です。

まとめ

●戦後60年間一貫した人口減少で総人口は半減。就職時での若者流出により現役世代の

落ち込みが顕著

●農業は20年で就業者が半減し、高齢化が進行。工業は3分の1減少、医療福祉も若年層の担い手が少なく将来に不安が残る

●合併で拡大した市域における分散居住と郊外高齢化が進行。現水準の行政サービス維持は、市の財政・人

材制約から至難

●若者が高梁に愛着を感じられる機会の提供と潜在的資源の可視化による多様な交流人口の獲得

●旧町地区での定住就業支援の取り組みを全市域で展開し、農業の6次産業化と特産品のブランド化を推進

●市街地の町家の用途転換や学生マンションの活用と就農者への郊外民家提供による市街地への住み替え促進

市の施策は総合計画に基づき、年次計画の中で事業を実施しています。しかし、事業を進める中で、計画に計上された事業をそれぞれに進めるのではなく、事業間の連携を

図り、まちづくりの将来像を示すことが重要です。

このため、この診断結果を一つの参考として、市中心部のまちづくりの基本方針となる「都市ビジョン」を本年度に策定予定としています。

■問い合わせ 企画課企画係 ☎02008